

A. 授 業 研 究

都築 亨 酒井 為久
田中 裕巳 北田 明子
川田 基生

原 幸宏 高須 明
丸山 豊 宮田 学

1. 授業研究についてのわれわれの視点

授業研究ということを通問の問題意識として出発しながら、われわれの共同研究グループは共同研究として思うような成果をあげることができなかつた。それは第一に授業という教師・生徒にとって最も日常的なことからであり、かつ又重要視されなければならない事項でありながら、校内においても授業を研究・交流の場とすることができなかつたことである。第二に、グループ構成員が国語科、社会科、理科、英語科、体育科というさまざまな教科であり、共通の目標が、授業の内容についても、研究の方法論としても把握されにくかつたことである。

これらの問題点 障壁について、われわれは、グループの活動を通じて、このように考えている。まず、授業という学校の間として最も大事でありながらも、教師の個人の力量やクセに解消されがちな事項を、何とか校内での研究交流での表面に位置づけることができるだけでも一つの意味をもつだろうし、教科によってそれぞれ指導目標が異なるし、授業それ自体の有り様も勝手がちがう面があるだろうが、教師・生徒の交流の場としての授業の時間はあるだろうし、その中には共通の事項・要素が見出されるはずではないだろうか。

更には学習のつまづきとか授業に投影される生徒の実態には共通のものがあると考えられる。学級の雰囲気とか、一般的生活指導のあり方が、そのまま授業のしやすさ、しにくさにつながるとすれば、特定の教科の授業としてではなく、一般的に授業の成立条件や要素をとり上げて、授業についての類型を考えることもできるのではないだろうか。

ただ、授業について類型化を試みることの可能性やその意味について積極的にとりあげようとする意見とこれについての消極論とがわれわれのグループ内にもあってまだ何れともいいようがない。

とりあえずということの研究グループで組上りのせた授業は

2月3日(木) 高校2年B組 倫社の授業
授業者 川田基生 グループで評価について
2月14日(月) 中学1年A組 社会科の授業
授業者 丸山 豊 土一揆について

3月8日(火) 高校2年女子 保健体育の授業

授業者 北田明子 創作ダンスの発表

3月8日(火) 高校2年B組 地学の授業

授業者 高須 明

4月13日(水) 中学1年A組 英語

授業者 宮田 学 英語入門期の指導

2. ビデオを利用した授業研究

講義を中心とした授業、班学習を中心とした授業、グループ発表を中心とした授業等々の様々な授業方法の展開において、授業を成立せしめる要因としての教師の授業観、力量等が問題とされるのは当然のことである。しかし、具体的な生徒個人に即してみれば、教科の好き嫌い、授業者との人間関係といった要素を無視して授業研究を行なうことは出来ない。そこで、授業分析の一つの方法としてビデオによる授業の記録を行なった。

6月2日(金) 高校1年C組 地理の授業

指導者 原 幸宏

6月5日(月) 中学3年A組 公民の授業

指導者 田中裕巳 地域社会について

6月5日(月) 中学1年A組 英語の授業

指導者 宮田 学

6月5日(月) 中学2年B組 歴史の授業

指導者 丸山 豊

これらの授業の比較検討はまだ充分には行なっていない。ただビデオによる授業記録の問題点としては、

(1) カメラの移動がほとんど出来ないために、死角が出来てしまう。

(2) 撮影者の生徒理解。重点的に記録すべき生徒を決めておく必要がある、ことを指摘できる。

以上のことを念頭において、ビデオによる授業の類型化の試みと、授業分析を今後期したい。

3. アンケートによる生徒の授業への構え

生徒の授業への対応——教科の好き嫌いの原因、授業形態への希望等を調査し、生徒の授業への構えを分析するとともに、授業分析における特定事例生徒の資料にする。以上の結果は来年度本紀要への掲載を予定している。

(都築・田中)